

情報提供

那医発第 157 号
令和 6 年 6 月 27 日

施設長 各位

那覇市医師会

会長 友利 博朗
担当理事 宮城 政剛



平素より医師会事業へのご支援ご協力賜り感謝申し上げます。
沖縄県医師会より「令和6年度 ACC e-learning」受講案内について」の通知が届きましたのでご案内申し上げます。別紙は当会ホームページに掲載致しますので、お手数ですがダウンロードをお願いします。

☆問合せ先 (那覇市医師会 事務局:宮城・前泊 /電話 098-868-7579)

記

沖 医 発 第 433 号
令和 6 年 6 月 26 日

地区医師会担当理事 殿

沖縄県医師会
理事 仲村尚司



「令和6年度 ACC e-learning」受講案内について

今般、国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院 エイズ治療・研究開発センターから標記文書の発出がありましたのでご連絡致します。

エイズ治療・研究開発センター (ACC) では、HIV 感染者の診療・看護などの実務を担う医療従事者の育成及び全国的ネットワークの構築を目的として、平成9年より研修が開催されております。

本件は、今年度より研修会の開催方法を現地研修形式から、オンライン開催へ変更し、「令和6年度 ACC e-learning」として開講する旨、お知らせするものです。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了知いただきますとともに、貴管下関係医療機関等への周知方につきご高配を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

記

募集コース	申込期間
一般視聴コース	令和6年6月3日(月)より随時申込可能
認定コース【基礎・応用コース】前期	令和6年7月1日(月)～7月12日(金)
テーマ別コース (心理職カウンセラー/地域医療/歯科/ 周産期小児)	令和6年8月1日(木)～8月12日(月)

※1 応用コースは基礎コース受講修了者のみ受講可能です。

2.申し込み方法

申し込みやその他詳細事項につきましてはセンターHPをご覧ください。

(URL ; <https://www.acc.ncgm.go.jp/seminar/>)

【お問い合わせ先】

エイズ治療・研究開発センター医療情報室研修企画係 Tel:03-3202-7181(代表)

● 「令和6年度 ACC e-learning」受講案内について

(令和6年6月吉日(事務連絡))

※関係文書は文書管理システムへ掲載いたします。

沖縄県医師会事務局業務 2 課 : 高良、平良
TEL:098-888-0087
FAX:098-888-0089
g2@okinawa.med.or.jp



事務連絡
令和6年6月吉日

研修ご担当者 各位

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院
エイズ治療・研究開発センター (ACC)
センター長 潟永 博之

「令和6年度ACC e-learning」受講案内について

謹啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より HIV 感染症の医療体制へ格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、ACC では HIV 感染者の診療・看護などの実務を担う医療従事者の育成及び全国的ネットワークの構築を目的として、平成9年よりエイズ治療・研究開発センター研修（ACC 研修）を行っています。研修環境をオンラインへ移行し、「令和6年度ACC e-learning」を開講しましたので御案内いたします。

つきましては、HIV 診療の従事者及び関係医療機関並びに団体の皆さまに、是非御参加を賜りたくお願い申し上げます。

謹白

1. 研修名・初回申込期間

募集コース	申込期間
一般視聴コース	令和6年6月3日（月）より随時申込が可能です
認定コース【基礎・応用コース】（前期）※1※2	令和6年7月1日（月）～7月12日（金）
テーマ別コース （心理職カウンセラー/地域支援/歯科/周産期小児）	令和6年8月1日（木）～8月12日（月）

※1 応用コースは基礎コース受講修了者のみ受講可能です。

※2 本年度より、アドバンストコース → 応用コース に名称を変更しております。

（講義内容は昨年までと同様となっております。）

2. 申し込み方法

申し込みやその他詳細事項につきましては当センターHP（URL：<http://www.acc.ncgm.go.jp/seminar/>）をご覧ください。

【照会先】

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院
エイズ治療・研究開発センター 医療情報室 研修企画係
Tel: 03-3202-7181（代表）/ Fax: 03-3208-4244
Mail: seminar@acc.ncgm.go.jp

以上

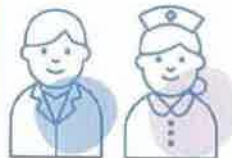
HIV感染症・性感染症について **学ぼう**

各種学びのコースを選んで、知識を深めよう！



基礎コース

HIV感染症・診療の基礎知識について学ぶ



応用コース (職種別)

職種毎の知識について理解を深め、技術を高める
※対象職種 (医師・薬剤師・看護師)



心理職コース (カウンセラー)

HIV陽性者の心理とメンタルヘルスを学ぶ



地域支援者コース

長期療養時代の療養支援、医療機関連携を学ぶ



歯科医療従事者コース

歯科診療時に必要な知識を学ぶ



周産期小児コース

HIV感染症の産科、小児科領域の知識を学ぶ

受講のステップを経て、各コースの修了認定を取得しよう！

STEP1

オンデマンド動画視聴

STEP2

ライブ講義受講

STEP3

レポート作成・提出

各コース
修了認定

申し込み方法

右記の二次元コードより、各コースのシラバスと募集期間をご確認のうえ、お申し込みください。▶
※募集期間は各コースで異なっている為、ご注意ください。





国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院 (NCGM)
エイズ治療・研究開発センター (ACC)

01

創刊号
JUNE
2024

ACC NEWS LETTER

Director's message

2024年度スタートに寄せて

ACCセンター長/医師 湯永 博之



エイズ治療・研究開発センター (ACC) は、薬害エイズ訴訟の和解をふまえ、被害救済の一環として1997年4月1日、国立国際医療センター病院 (当時) に開設されました。構成は、臨床研究開発部のもと、専門外来、病棟、医療情報室、治療研究開発室の4部門からなっております。また、薬害 HIV 感染者に対する被害救済を一層強化するため、2011年7月より救済医療室を併設し、ACCのみならず院内外の様々な診療科の先生方にもご参画いただいております。

ACCの第一の任務は、HIV感染者に対する包括的な診療を行い、予後の改善と長期にわたる患者の社会生活をサポートすることにあります。抗 HIV 療法の著しい進歩と総合医療・全身医療を基盤とする国立国際医療研究センター病院の全科対応に助けられ、ACCを受診する患者の予後・生活の質は劇的に改善しております。2024年3月末までにACCを受診した HIV 感染者は5,400人を超えました。この豊富な経験を生かして、ブロック拠点病院、中核拠点病院、拠点病院を通じて全国の HIV 診療のレベルアップ・均質化を行うのも重要な責務であります。このため、医療従事者を対象とした数多くの研修活動を行っております。また、先進的な診療を実践・提供するのも大きな任務であり、感染者一人一人に応じた最適な治療法を開発するために臨床研究や多施設共同臨床試験なども積極的に行っております。世界規模で考えれば、HIV 感染症 / エイズはむしろ途上国で大きな問題となっております。このため、ACCの活動は国内にとどまらず、HIV 感染者の多い途上国、特にアジアの国々との共同研究なども行い、国際貢献を果たしております。

また、次世代に HIV を残さないための取り組みとして、新規感染者ゼロを目指した予防活動も行っております。現在、日本での感染は男性同性愛者 (MSM) が中心となっています。HIV に感染していない MSM のための Sexual Health 外来を開設し、他の性感染症も含めた予防活動にも力を入れています。

このように、ACCでは、豊富な症例数、臨床研究、国際協力などを通じ、感染症全般を学ぶことが可能で、現在多くの若手医師が集まり切磋琢磨しております。HIV 診療を通じて、広い視野を持った世界に通用する若手感染症専門医が育成され、感染症診療全体の底上げにつながることは、私たちの大きな喜びでもあります。HIV 感染症が、医療分野にとどまらず、社会的にも、政治的にも、大きな問題であることは紛れもない事実です。ACC一同、この大きな難題に正面から対峙する所存でございます。皆様からの幅広いご助言、ご支援を賜れば幸いです。



2024年4月に新たに就任した2人とともに、湯永博之 ACCセンター長 (中央)、上村悠 ACC救済医療室長 (左)、中本貴人 ACC専門外来医長 (右)



この度、2024年4月からエイズ治療・研究開発センター（ACC）の専門外来医長を拝命いたしました中本寛人と申します。ACCは薬害エイズ訴訟の和解を踏まえた恒久対策の一環として1997年に開設されました。その目的の一つは、HIV感染症に関する最新の高度な診療を提供することで、これまでの諸先輩方のご尽力により、薬害 HIV 患者だけでなく、多くの HIV 感染者を診療し、2022 年末時点で 5200 名を超える患者を診療してきた実績がございます。その ACC の一部門である専門外来の医長という職務の重責に、身が引き締まる思いです。

私は、小児科医師、感染症科医師として臨床の道を歩んでいましたが、HIV 感染者に対してより高度な診療を提供できるようになるため、2021 年から ACC での勤務を開始しました。ACC では豊富な臨床経験が得られるだけでなく、これまで ACC の諸先輩方が積み上げてこられたエビデンスも学べ、多くの困難に立ち向かってこられた薬害エイズ患者の皆

様の思いや信念に触れ、様々なスティグマに悩みながらも立ち向かっている HIV 患者の皆様の姿勢を目にし、医学的なことだけでなく社会的、人間的にも成長してきました。まだまだ学びは止まらないですが、これからは私が諸先輩方から受けたように、自分が得た学びを後進達にも伝えながら、皆様によりよい HIV 診療を提供できるよう努力する所存です。

HIV 診療は日々進歩しており、現在は 1 日 1 回 1 錠の内服薬や 1～2 か月毎の注射薬でコントロール可能な慢性疾患となっています。そのため、HIV 患者における大きな医学的課題は、メンタルヘルス、生活習慣病からの心血管疾患、非 AIDS 関連悪性疾患となっています。したがって日々の診療において様々な予防啓発や早期発見、早期治療提案が重要です。ACC では医師や看護師だけでなく、豊富な経験を有する HIV コーディネーターナース、薬剤師、臨床心理士、歯科衛生士、メディカルソーシャルワーカーといった多職種が在籍しており、HIV 患者の皆様を 360 度、全方向からサポートする体制が整っています。この患者中心のチームが ACC の最大の強みの一つです。さらに、当院には様々な高度専門医療を提供できる医師が数多く在籍している総合病院であり、上記疾患に対応できる体制が整っています。ACC チーム、NCGM チームとして受診されている患者の皆様には、心身ともに健康を維持していただき、その経験を全国の HIV 診療のレベルアップ・均てん化に生かしていければと考えております。

ACC では若輩者ではありますが、患者の皆様だけでなく、一緒に勤務する ACC、NCGM の皆様も笑顔になれるような外来を目指すよう努力いたします。



2024 年 4 月 1 日より救済医療室長を拝命しました上村悠です。全ての被害者のご家族、ご遺族に心より敬意を表します。また、私たちの薬害エイズ被害者救済医療の活動にご支援を頂いております皆様へ深く感謝を申し上げます。

私は、2009 年より長野県で医師として初期臨床研修を開始しました。ACC に救済医療室が設置された翌年の 2012 年に国立国際医療研究センターで感染症診療研修を開始し、2015 年より ACC に所属しています。学生の頃に HIV 感染症について学ぶ機会はありませんでしたが、初期研修では HIV 感染症の方を診療する機会はなく、国立国際医療研究センターで一から HIV 診療を学びました。薬害 HIV 感染者の診療についても同様で、先輩の医療者たちから 1980 年代の日本におけるエイズパニックの頃の HIV 診療の様子、HIV 感染症、血友病の診療がどの様に進歩してきたか、薬害エイズ事件から

受けた教訓をどの様に日々の行動に生かすべきか、教えるを受けてきました。

1996 年の薬害エイズ訴訟の和解、そして 1997 年のエイズ治療・研究開発センター設立から四半世紀が経過しました。この間、医学上の進歩は目覚ましいものがあります。抗 HIV 療法はより高いウイルス抑制効果を得られる様になりました。血友病の治療については、長期作用型の薬の登場により定期補充療法の普及が加速し、近年では皮下注射による治療も開発され、治療の選択肢が広がっています。C 型肝炎は、新たに開発された直接作用型抗ウイルス薬により、高い確率で治療することが可能となりました。

医学は進歩をしている一方で、新たな課題もでてきました。高齢化に伴い生活習慣病や悪性疾患のリスクが増えています。肝硬変の方などでは、C 型肝炎ウイルスの排除後であっても、肝癌を発症するリスクは残り、注意が必要です。血友病については、関節症の進行、そして療養環境の確保など、懸念すべき課題が多数残されています。薬害被害者が直面している課題は、同時に日本の医療にとっても重要な課題となります。私たちは、今この時代に直面する課題について正しい情報を収集し、どの様に対処するべきかを検討し、発信をします。

全ての皆様が最良の医療を受け、安心安全な生活を送るために、当事者である皆様の声を大切に、全国の医療者・関係者と共に患者参加型医療、薬害エイズ被害者救済に取り組んでまいります。お力添え頂けますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

知っていますか？

身体の健康にも大切な「お口の健康」

最新号

ACCには歯科衛生士がいます。皆様のお口の中の健康向上を目的として、歯周病や虫歯の予防に大切な歯磨きの方法をお伝えしたり、一緒に練習をしたりしています。

また、歯科を受診したくてもどの歯医者に行ったらいいのか困ってしまう、歯科を受診しているけど治療がよくわからないなど、歯科に関するご相談もお聞きしています。

口腔の健康は、全身の健康維持にとっても重要です。ACCでは、患者さん向けに少しでもお役に立てられるような内容をニュースレターとしてご紹介しております。ACCのウェブサイトでもいつでもご覧いただけます。

歯科治療については、エイズ治療拠点病院の歯科以外でもHIV陽性患者の協力歯科医療機関が展開されています。協力医のネットワークリストをもとに患者さんに合った歯科医療機関のご紹介をしております。

また、HIV感染症の診療・実務を担う医療者の育成と全国的ネットワークの構築を目的にACC研修を行っています。研修コースの一つに、歯科医療従事者コースを設置しており、HIV感染症診療に携わる歯科医療従事者を対象にHIV感染症に関する支援方法、歯科診療時に必要な知識を学ぶことが出来ます。

DENTAL NEWS LETTER

2024.4
VOL.14

キシリトールと歯の関係

キシリトールの植物由来

白樺や樺の木からとれる天然甘味料で糖アルコールの1つです。砂糖と同じ甘味度があります。

まだまだあるよ

●キシリトールはカルシウムと結合し歯の再石灰化を促します。
●甘味があるため味覚が刺激され唾液が出ます。
●吸収速度が遅いため、血糖値の上昇が穏やかなのも特徴の1つです。また、代謝するのにインスリンを必要としないので糖尿病の方が比較的安心して摂取できる甘味です。

キシリトールのおやつはたくさんあるよ

- ガムや飴、チョコレート、グミなどがあります。
- ガムやグミは噛む事で唾液が分泌されるのでお口の自浄作用効果も期待できます。
- 輪比のど輪に入っている製品もあるので、喉がイガイガしたときに口に入れると良いでしょう。
- チョコレートは少しお値段が高めですが、従来のチョコレートと変わらない味が楽しめます。
- 1日3-4回食後に摂りましょう。

キシリトールの最大の効果は

虫歯の予防

- 虫歯の原因菌ミュータンス菌は口に入ってきた食べ物(糖)をエサにして酸を作ります。酸が徐々に歯を溶かしていき、穴が開いた状態が虫歯です。
- キシリトールは酸にはならないため、虫歯になりません。また、ミュータンス菌がキシリトールを取り込むと、エネルギーを消費し増殖できなくなります。
- キシリトールを摂取することにより、酸の生産が抑制され、虫歯リスクが低下していきます。

歯の再石灰化とは

酸で溶けた歯の表面を、唾液の成分であるカルシウムやリンでエナメル質の結晶を新しく形成し修復する現象です。

歯科衛生士です、こんにちは。

●キシリトールのお菓子を選ぶときに含有量にも気を付けてください。キシリトール含有50%以上が推奨されています。箱や袋の裏に記載されているのでチェックしてください。

●たくさん食べると効果が上がるといっておきませんが、1度にたくさん食べると効果が薄くなることもあります。適量は5-10gです。例えば、50%以上キシリトール含有のガムを1日3回食後に食べると30分ほど噛むと良いですよ。

●私の勧めはキシリチョコです。歯科衛生士なのでかかりつけ歯科などで見かけたら、お試ください。

●キシリトールだけでは虫歯を完全に予防することはできません。毎日の歯磨きをしっかり行いましょう。

【DENTAL NEWS LETTER バックナンバー】

- Vol. 1 | 歯周病ってどんな病気？
- Vol. 2 | 歯と歯の間のお手入れや基本的なブラッシング方法など
- Vol. 3 | 手指用歯ブラシのご紹介
- Vol. 4 | 歯と歯の間のお掃除 デンタルフロスや歯間ブラシ
- Vol. 5 | どうして虫歯はできるのかな？
- Vol. 6 | 唾液のお仕事
- Vol. 7 | 電動歯ブラシを使った事はありますか？

- Vol. 8 | 口内フローラをご存知ですか？
- Vol. 9 | タバコとお口の健康
- Vol. 10 | 歯ブラシの交換はしていますか？
- Vol. 11 | オーラルフレイル
- Vol. 12 | 歯科受診で困ったことはないですか？
- Vol. 13 | ワンタフトブラシをご存知ですか？



ACC パネル展 2023

「エイズ対策における市民団体の役割」

2023年12月1日（金）～17日（日）、国立国際医療研究センター（NCGM）病院の中央棟地下1階アトリウムにて、ACC パネル展「エイズ対策における市民団体の役割」を開催しました。

ACC パネル展は、HIV/エイズや薬害エイズ事件、ACC の取り組みなどについて、NCGM を訪れる多くの人々に広くご理解いただくことを目的に、毎年1回、様々なテーマで開催しています。

2023年のパネル展テーマは、「エイズ対策における市民団体の役割」。この年のUNAIDSの世界エイズデーで掲げられたメッセージ「Let Communities Lead（コミュニティ主導でいこう）」に沿ったものです。

市民団体の役割とACCとの連携を伝えるパネル

パネルは3つのコンテンツによる6枚で構成しました。

1つ目は、「スペシャルトークセッション ACC x 市民団体 コミュニティ視点でつなげる一地域・ひと・医療」です。ACCと連携している市民団体として、はばたき福祉事業団、akta、ぷれいす東京の3つの団体の代表を迎えて、ACCの田沼順子医師がHIV治療・予防における市民団体の役割や市民参画の意義、これからのACCとの連携のあり方などについて対談した内容をお届けしました。

2つ目は、田沼医師のスペシャルインタビュー「コミュニティとともにHIVの流行を終わらせる—ACCの患者参加型医療がめざすもの」。HIV/エイズ分野における市民参画の歩みや、ACCが提供する患者参加型医療のあり



NCGM中央棟のアトリウムのステージに並んだ6枚のパネル

方、コミュニティとの関わりなどについて、田沼医師が語った内容をお伝えしました。

3つ目は、「HIV治療とACCの歴史」です。1981年に初めて米国で患者さんが報告されてから2023年までのHIV治療とACC設立からの歩みを年表にして、大きなパネルで振り返りました。

2030年のエイズ流行終結の目標に向けて

展示期間中は、アトリウムの休憩スペースで過ごされる方を中心に、多くの人にパネルを鑑賞いただきました。HIV予防啓発のリーフレットの配布も行いました。

2030年のエイズ流行終結の目標を達成するためには、患者さんや市民団体の協力なくしては達成できません。ACCは、これからも患者さん中心の医療であることを大切にし、それぞれの視点を知りながら取り組むべきことを引き続き追求してまいります。



HIV予防啓発のポスターと配布したリーフレット

展示内容はACC公式サイトでご覧いただけます

市民団体との対談やACC医師のインタビューなど、パネルの全コンテンツを公式サイトの下記ページで公開中です。ぜひご覧ください。

エイズ治療・研究開発センター Web サイト
TOPICS「2023年パネル展「エイズ対策における市民団体の役割」」
<https://www.acc.ncgm.go.jp/accrepo/topics/20231201.html>

